

2007年2月5日

中期経営計画 “JIKKO-2007” の進捗について

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）は、2005年1月に、2005年度（2005年12月期）から2007年度（2007年12月期）までの3年間の中期経営計画 “JIKKO-2007” を策定、新たな成長戦略を実行し、グループビジョン “Look Beyond” の実現を目指しています。

これまでの2年間に実施した各種施策及び “JIKKO-2007” の最終年度にあたる2007年に展開していく事業戦略等について、以下の通り取り纏めました。

1. “JIKKO-2007” の概要等

中期経営計画 “JIKKO-2007” では、TFT用ガラス基板を中心とするFPD事業への積極的な投資とCRT事業の収益改善、新興市場でのガラス事業の拡大、北米事業の収益改善に取り組み、既存事業の更なる成長と収益力の改善を図ります。また、次世代の成長事業としてエレクトロニクス&エネルギー事業を本格的に立ち上げます。

これらの主要施策を展開するとともに、株主価値を継続的に向上させるため、資産効率を高めながら、「**営業利益率10%以上を達成・継続**」させることを目標としています。

< 2007年12月期の業績見通し >

2007年12月期の業績見通しは次の通りで、“JIKKO-2007” の目標である「**営業利益率10%以上を達成**」する見込みです。

	2006年12月期 (実績)	2007年12月期 (見通し)
売上高	16,205億円	16,700億円
営業利益	1,366億円	1,800億円
営業利益率	8.4%	10.8%
D/E	0.58	0.5

2. “JIKKO-2007” における施策の進捗と今後の取り組み

(1) ディスプレイ事業

ディスプレイ事業については、CRTからFPDへ需要が急速にシフトしており、特にテレビ需要ではLCD比率が大幅に増加しつつあります。

このような状況において、以下の主要施策を展開しています。

CRT用ガラス

- ・想定以上に需要落ち込みのペースが速く、構造改善が遅延していたが、2006年下期以降は、改善テンポを速めて生産集約化を実施（2007年3月末にはピーク時の40%まで生産能力を削減）
- ・固定資産の減損を実施（売却可能資産を除いて固定資産の残高はほぼゼロ）
- ・今後は、残る拠点についても、コストミニマム化と最適受注を図るとともに、継続的に事業縮小を検討

TFT用ガラス基板

- ・中計期間中に1,000億円以上の投資を実施し、製造窯6基を建設。これにより生産能力は、2004年末時点の1400万㎡/年から2007年末時点で4200万㎡/年まで増加（日本・台湾・韓国での一貫量産体制を構築）
- ・テレビでのLCD比率のアップとLCDパネルの大型化の進展により、ガラス基板需要の拡大のスピードは中計期初の予想より大幅に上振れ
- ・当社のガラス基板が環境フリーであることや、「フロート法+大型サイズ研磨」により、当社の優位性は一層向上
- ・今後は、お客様とのリレーションや既存設備の生産性改善も加味しながら、設備拡張により市場拡大に対応

PDP用ガラス基板

- ・需要拡大に備え、日本に加えて韓国に新窯を建設するとともに、関西（住之江）工場の大型加工拠点を新設し、お客様立地による顧客満足度の向上と生産効率の改善を図る（日本・韓国での一貫量産体制の構築）

< 量産開始予定 >

韓国新窯... 2007年8月頃

住之江... 2007年5月頃

(2) ガラス事業

ガラス事業（板ガラス、自動車ガラス）における中計期間中の事業環境は次の通りです。

影響	事業環境	該当部門
ポジティブ	西欧の市況回復	板ガラス
	ロシア・東欧の成長	板ガラス、自動車ガラス
	日系自動車メーカーが好調	自動車ガラス
ネガティブ	重油など原燃材料高騰	板ガラス、自動車ガラス
	アジア経済の一部低迷	板ガラス、自動車ガラス
	日・ア地域への安値輸入品増	板ガラス
	北米建築市況の不透明感	板ガラス

このような事業環境の中、ビジネス拡張と既存拠点の収益力強化のため、以下の主要施策を展開しています。

主要施策	該当部門
新興市場での生産能力拡大 【板ガラス】 ・ロシア（05年3月）、中国（蘇州：06年5月）での量産開始 （チェコで08年初に量産開始予定） 【自動車ガラス】 ・ハンガリー（06年初）での量産開始 （中国第2工場（仏山）で08年第1四半期に量産開始予定）	板ガラス、自動車ガラス
自動車用素板、建築用加工ガラス、太陽電池用ガラスの強化で差別化	板ガラス
欧米拠点でのビルド&スクラップによる収益改善	板ガラス、自動車ガラス
収益改善のためのコストダウン	板ガラス、自動車ガラス

(3) 北米事業

北米地域においては、以下の通り事業全体の再構築を推進しています。

板ガラス事業

- ・マネジメントを刷新し、収益改善プロジェクトを再スタート
- ・不採算となっているシナミンソン工場を閉鎖

自動車用ガラス事業

- ・ビルド&スクラップ及び生産性向上施策を実施、その一環としてメキシコの工場を閉鎖
- ・ガラスアッセンブリー事業の建て直し

フッ素事業

- ・生産性は向上したものの事業全体の改善遅延、今後は必要な施策を遅滞なく実施

(4) エレクトロニクス&エネルギー事業

エレクトロニクス&エネルギー事業については、中計では事業の育成期間として基盤固めを推進していますが、当社の保有するガラスとフッ素化学のコアテクノロジーを活かせる領域で「将来事業の種」を順調に育成しています。

今後は、現在好調な合成石英や液晶用バックライトチューブに加えて、光ピックアップ素子など光部品分野の成長を予想しています。

半導体プロセス部材（合成石英、SiC、CMP スラリーなど）

- ・合成石英が当面の事業の核に成長
- ・画期的な平坦化性能をもつCMPスラリーを開発

ディスプレイ部材（液晶用バックライトチューブ、PDP用光学フィルター、フリットシート）

- ・液晶用バックライトチューブが大きく伸長

光部品（光ピックアップ素子、マイクロガラス、HDD用ガラス基板など）

- ・HDD用ガラス基板に事業参入し、タイでの集中生産を実現
- ・松島光コンポーネント社（マイクロガラス事業）を買収

(5) 化学事業

フッ素・スペシャリティ事業

- ・フッ素樹脂E T F Eは市場拡大に対応した安定供給力を確保
< 増強計画 >
 - 鹿島工場... 2005年に実施済、2008年にも実施予定
 - 英国拠点... 2007年に実施予定
- ・フッ素樹脂フィルムは商品独自性で需要を創出
- ・撥水撥油剤は千葉工場に環境適合型専用設備を立ち上げ、環境指向で競合に先行（アサヒガードEシリーズ）

クロールアルカリ・ウレタン事業

- ・苛性ソーダ、電解関連製品は国内外で地域No.1シェアを確立
- ・ウレタン事業は汎用品からカスタムメイド品・高機能品へシフト

3. グループ・ブランド統一

当社は2002年にグローバル一体経営を掲げ、社内カンパニー制に移行、グループ・ビジョン“Look Beyond”を制定し、この実現に向けた経営体制を整備してきました。

当社の100周年(2007年9月)を機に、グループ・ブランドを「AGC」に統一し、ステークホルダーに広範囲にわたる当社グループの事業形態を分かりやすく伝えると同時に、AGCグループ従業員の一体感を高め、グローバル成長戦略を加速していきます。

また、グループ各社は「AGC」を冠する社名に変更し、使用するロゴをAGCに統一します。

4. 経営方針“JIKKO”イニシアチブへの取組み

当社はグループビジョンの浸透やES向上など7つの「主要イニシアチブ」を設定し、グループ全体での取組みを推進しています。

モノづくりへのこだわりと現場力の強化

- ・AGCモノづくり研修センターを開設(2006年7月)し、「実学一体教育」により人材を育成
- ・プロフェッショナル制度、マイスター制度のスタート
- ・2007年からはアジア関係会社を契機に、技術・技能伝承の取組みをグループ全体に拡大

CS、品質への取組み強化

- ・「CSの視点を日々の仕事に入れ込む」を合言葉にひとり一人の仕事の価値を高める活動を展開
- ・良い事例を横展開し、活動を促進するための「CS表彰」制度をスタート

以上

本件に関するお問い合わせ先：旭硝子(株)広報・IR室長 川上 真一

(担当：齋藤 TEL:03-3218-5509、Email:info-pr@agc.co.jp)